

なかつか 亮



福祉避難所の充実を

障害者・高齢者の、災害時の防災計画はどうなってるの



心身障害者福祉会館一旗の台5丁目一のパネル討論の様子。主催：みんなの会（事務局長：深沢時子）

災害がおきた時、障害者や高齢者はどう対応すればよいのか。「災害と障害児・者」をテーマにパネル討論が8月20日、みんなの会（しながわ障害がある人もない人もみんなの手をつなぎ生活を豊かにする会）主催で開催されました。東日本大震災から教訓を学び、品川区の防災計画に、災害弱者への具体的な支援充実が求められています。

移動ができない 視覚障害者の声

パネル討論では障害者や高齢者から、震災時の不安な思いが次々とだされました。

品川区在住で、3・11大震災時は、外出中だった視覚障害者の女性「今回は運良くすぐにタクシーに乗れ、自宅に戻れたが、タク

シーがつかまらなかつたり、もっと大きな地震が起きた時はどうなるのか。いざという時に避難所に行けても、知り合いや介助者がいないと、トイレにも炊き出しの食事にも移動ができない」と発言。また、精神障害のある息子の母親は「息子は、日常生活でも掃除機の音、車の音、人の気配が気になり体が動けなくなり。大地震の時、私が隣にいても避難所生活は無理だと思

う」と語りました。

会場から「私は足が悪く、机の下に潜れません」
裏面へ

とても1人で避難所へ移動することができない私は、どうしたらよいのでしょうか」と高齢者からの発言もありました。

東日本大震災から5カ月余。被災地では厳しい避難生活で体調を悪化させ”いのち”を落とす震災関連死が相次いでいます。災害時に弱い立場に置かれる障害者や高齢者への支援策は待ったなしです。被災地支援とあわせ、品川区の防災計画に、障害者や高齢者への支援を十分に位置付けることが重要です。**まずは実態把握を** 障害者や高齢者について、品川区の防災計画はどうなっているのでしょうか。

障害者や介護が必要な高齢者は約2万3千人ですが、災害時要援護者登録は約3千人のみ。実態の把握したいがとても遅れています。

まずは、どこに、どのような支援を必要としている人がいるのか、行政が実態をつかむこと。そして、医療・介護施設と連携し、地域住民の協力を得ながら、具体的な避難プランを作成することが必要です。

福祉避難所に備蓄、体制の強化を

また、避難所の改善も急がれます。区防災計画では、学校避難所での生活が困難な障害者や高齢者について、シルバ

センター等で福祉避難所を開設し、移動する計画ですが、この福祉避難所には、災害時の備蓄や避難所運営のための体制が整えられています。受け入れ人数も1650人と少なく、特養ホームや障害者施設が福祉避難所に指定されていない問題もあります。

障害者や高齢者など当事者参加を位置付けて、備蓄や体制の構築、福祉避難所の拡大に向けた区防災計画の見直しが急がれます。

区議会では震災対策特別委員会が設置されています。住民参加で防災計画の見直しを進めましょう。
なかつか亮

若者震災ボランティア報告会のお知らせ

8月18日から2泊3日で行なわれた品川・大田青年ボランティア隊（大学生や若者が中心に企画）の報告会が行なわれます。ぜひ、ご参加ください。

9月11日（日）午後2時～
中小企業センター

主催：同実行委員会／事務局：
民青同盟品川地区委員会（白石）



二日目の「支援物資お届け隊」の様子

次回の『気軽な町の無料法律相談会』のお知らせ

9月9日（金） 午後6時～8時 場所：日本共産党なかつか亮事務所
弁護士と一緒に無料相談会を行なっています。法律のこと、生活のこと等お困りのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。なお、「生活なんでも相談」は毎日受け付けていますので、いつでもご連絡ください。なかつか亮

連絡先 昼：区議控室 **5742-6818** 夜：事務所 **3773-3231**